

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2020.12.21-27

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

5:1 そこで、私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じく長老のひとり、キリストの苦難の証人、また、やがて現われる栄光にあずかる者として、お勧めします。

5:2 あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを、牧しなさい。強制されてするのはなく、神に従って、自分から進んでそれをなし、卑しい利得を求める心からではなく、心を込めてそれをしなさい。

5:3 あなたがたは、その割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。

5:4 そうすれば、大牧者が現われるときに、あなたがたは、しぼむことのない栄光の冠を受けるのです。

5:5 同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。

5:6 ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。

5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

長老とは年齢のことではなく、指導的な立場にある人々のことです。教会では牧師のほか、リーダーやスポンサー、また教師やスタッフなど様々な指導者がいます。また信仰が数年以上であるなら、誰か新しい人をお世話しても良いのですから、「神の羊の群れを、牧しなさい。」とは多くの人にとって、自分に言われていると考えて良いでしょう。

教会の人々の模範になることが求められています。

どのような点で模範になる必要があるのでしょうか。しっかりと考えてみましょう。

また若い人たちとは、年齢ではなく信仰年数のことです。信仰が浅くても、または教会では指導的な立場になくても、社会では立派な人はいらっしゃいます。しかし社会の地位と教会での働きは違います。誰であっても教会では謙遜であることが求められます。教会での謙遜な姿勢はどのようにして表すことができるのでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5:8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。

5:9 堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。ご承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通して来たのです。

5:10 あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあってその永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみのあとで完全にし、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。

5:11 どうか、神のご支配が世々限りなくありますように。アーメン。

5:12 私の認めている忠実な兄弟シルワノによって、私はここに簡潔に書き送り、勧めをし、これが神の真の恵みであることをあかししました。この恵みの中に、しっかりと立っていなさい。

5:13 バビロンにいる、あなたがたとともに選ばれた婦人がよろしくと言っています。また私の子マルコもよろしくと言っています。

5:14 愛の口づけをもって互いにあいさつをかわしなさい。キリストにあるあなたがたすべての者に、平安がありますように。

ペテロの手紙は苦難にある教会に書き送られましたが、それはそのまま現代においても、苦難にある人々に語るものです。

苦難に際して、サタンはクリスチャンを落胆させて、信仰から引き摺り下ろそうとします。「悪魔が、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回って」いる状態です。苦難に

ある人はサタンの餌食にならないようにしましょう。神様を見上げることです。

その神様は「あなたがたをしばらくの苦しみのあとで完全にし、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくだ」さる方です。

苦難でこと信仰が試されることを覚えつつ、主にある希望を持って、強められましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1:26 ところで、その六か月目に、御使いガブリエルが、神から遣わされてガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た。
 1:27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリヤといった。
 1:28 御使いは、はいて来ると、マリヤに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」
 1:29 しかし、マリヤはこのことばに、ひどくとまどって、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。
 1:30 すると御使いが言った。「こわがることはない。マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。
 1:31 ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。
 1:32 その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。
 1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」
 1:34 そこで、マリヤは御使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんのに。」
 1:35 御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。
 1:36 ご覧なさい。あなたの親類のエリサベツも、あの年になって男の子を宿しています。不妊の女といわれていた人なのに、今はもう六か月です。
 1:37 神にとって不可能なことは一つもありま

せん。」

1:38 マリヤは言った。「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」こうして御使いは彼女から去って行った。

「どうしてそのようなことになりえましょう。」というマリヤのことばは、不信仰ではなく、そのみわざの不思議さと驚きからきたものです。どのようにして…というニュアンスです。非常に素朴な好奇心という感じです。マリヤはザカリヤのように証明を求めているのではないからです。またマリヤは「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」と、全く主に信頼し、主に喜んで服従している心であることがわかります。

そのような信仰の人に主の祝福とみわざが届くのです。最近あまり主を感じない…などと思うときもあるかもしれませんが、もしかしたらマリヤのような信仰が足りないのかも知れません。祈って考えて見ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



24日 木曜

ルカ

1:39 そのころ、マリヤは立って、山地にあるユダの町に急いだ。

1:40 そしてザカリヤの家に行って、エリサベツにあいさつした。

1:41 エリサベツがマリヤのあいさつを聞いたとき、子が胎内でおどり、エリサベツは聖霊に満たされた。

1:42 そして大声をあげて言った。「あなたは女の中の祝福された方。あなたの胎の実も祝福されています。

1:43 私の主の母が私のところに来られるとは、何ということでしょう。

1:44 ほんとうに、あなたのあいさつの声が私の耳にはいったとき、私の胎内で子どもが喜んでおどりました。

1:45 主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう。」

1:46 マリヤは言った。「わがたましいは主をあげ、

1:47 わが霊は、わが救い主なる神を喜びたえます。

1:48 主はこの卑しいはしのために目を留めてくださったからです。ほんとうに、これから後、どの時代の人々も、私をしあわせ者と思うでしょう。

1:49 力ある方が、私に大きなことをしてくださいました。その御名は聖く、

1:50 そのあわれみは、主を恐れかしこむ者に、代々にわたって及びます。

1:51 主は、御腕をもって力強いわざをなし、心の思いの高ぶっている者を追い散らし、

1:52 権力ある者を王位から引き降ろされます。



低い者を高く引き上げ、

1:53 飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせないで追い返されました。

1:54 主はそのあわれみをいつまでも忘れないで、そのしもべイスラエルをお助けになりました。

1:55 私たちの先祖たち、アブラハムとその子孫に語られたとおりです。」

1:56 マリヤは三か月ほどエリサベツと暮らして、家に帰った。

エリサベツはマリヤと同じく、主からの御心として子を宿しました。聖霊による救い主とは違いますが、それでも主のみわざであることには違いがありません。このように共通することを分かち合う信仰の友はとても励ましになるのです。訪問し合って、分かち合い祈り合いましょう。

主のみわざによって身ごもるのだと確信したマリヤは大いに励まされて、賛美しました。それは主への信頼と希望に満ちたものです。マリヤにとっては結婚前に妊娠するという事は身の危険をも意味しましたが、それでも主を信頼して歌ったのです。

これに対して、自分の願いばかりを求める信仰では、疑心暗鬼になるばかりです。主のみこころがなることを喜んで、本当の平安を受けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2:1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。

2:2 これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録であった。

2:3 それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った。

2:4 ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、

2:5 身重になっているいいなずけの妻マリヤもいっしょに登録するためであった。

2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、

2:7 男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

2:8 さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。

2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。

2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。

2:11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」

2:13 すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現われて、神を賛

美して言った。

2:14 「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなる人々にあるように。」

羊飼いに救い主の誕生が告げられました。彼らはこの世的には報われない人生を送っていた人々でしたが、神様はそのような人々を見過ごしにはなさらないのです。

自分がみじめに感じたり、価値がないように感じるときは、主が見ていてくださるということをおいしましょう。そして主に喜んでいただき、主に特別に扱っていただけることを信じて、与えられた働きに励みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1:1 イエス・キリストのしもべであり使徒であるシモン・ペテロから、私たちの神であり救い主であるイエス・キリストの義によって私たちと同じ尊い信仰を受けた方々へ。

1:2 神と私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたの上にありますますます豊かにされますように。

1:3 というのは、私たちをご自身の栄光と徳によってお召しになった方を私たちが知ったことによって、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えるからです。

1:4 その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。

1:5 こういうわけですから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を、

1:6 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、

1:7 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。

1:8 これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、あなたがたは、私たちの主イエス・キリストを知る点で、役に立たない者とか、実を結ばない者になることはありません。

1:9 これらを備えていない者は、近視眼であり、盲目であって、自分の以前の罪がきよめられたことを忘れてしまったのです。

1:10 ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、

あなたがたの召されたことと選ばれたことを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。

1:11 このようにあなたがたは、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の御国にはいる恵みを豊かに加えられるのです。

クリスチャーの成長について書かれています。「私たちが知ったことによって」とあります。成長は私たちの頑張りや修行によってではなく、神様とその救いを知ることによって与えられるのです。頑張りが必要ないではありません。頑張り信仰によって、恵と喜びのうちになされるものなのです。

また「その栄光と徳によって」と「約束のゆえに」とあります。神様の栄光を見ると強い信仰が与えられます。また主イエスの愛という徳に触れると、きよい信仰が成長します。さらには主の「約束」を信じることできて、その希望のゆえにどんな苦難にも負けないようになります。

そのような主とともに歩みましょう。神様を体験しましょう。そのためにはクリスチャーの集まりに出て、礼拝で熱心に主を求め、主に従っていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1:12 ですから、すでにこれらのことを知っており、現に持っている真理に堅く立っているあなたがたであるとはいえ、私はいつもこれらのことを、あなたがたに思い起こさせようとするのです。

1:13 私が地上の幕屋にいる間は、これらのことを思い起こさせることによって、あなたがたを奮い立たせることを、私のなすべきことと思っています。

1:14 それは、私たちの主イエス・キリストも、私にはっきりお示しになったとおり、私がこの幕屋を脱ぎ捨てるのが間近に迫っているのを知っているからです。

1:15 また、私の去った後に、あなたがたがいつでもこれらのことを思い起こせるよう、私は努めたいのです。

1:16 私たちは、あなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨とを知らせましたが、それは、うまく考え出した作り話に従ったものではありません。この私たちは、キリストの威光の目撃者なのです。

1:17 キリストが父なる神から誉れと栄光をお受けになったとき、おごそかな、栄光の神から、こういう御声がかかりました。「これはわたしの愛する子、わたしの喜ぶ者である。」

1:18 私たちは聖なる山で主イエスとともにいたので、天からかかったこの御声を、自分自身で聞いたのです。

1:19 また、私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。夜明けとなって、明けの明星があなたがたの心の中に上るまでは、暗い所を照らすともしびとして、それに目を

留めているとよいのです。

1:20 それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということなのです。

1:21 なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。

ペテロは地上の生涯をもう直ぐに終えるという覚悟に生きていました。その最後に自覚した大切な使命は、クリスチャン達を「奮い立たせる」ことです。伝道も大切であって、クリスチャンであれば必ずすべきことであり、祝福と喜びですが、それだけではありません。クリスチャンを励ますことも忘れてはならないのです。

セルなどで互いに信仰を励まし合うことは、大きな働きであり、それは健全な信仰を回復させて、さらには伝道へとつながってゆくものです。

ペテロは聖書の記者である自分たちの証言を、「作り話に従ったのでは」なく、真実であると明言しています。聖書は全て真実であり、そこに書かれていることは、神のことばゆえに力あるものです。

ただしこの聖書を読むにあたっては大切なことがあります。それは「私的解釈を施してはならない」ということです。それをしてしまうと真実が歪められてしまうこととなります。

ですから正しく解き明かす人が必要で、それはキリスト教、教会、そして解釈の歴史に主が働いておられるので、それらを踏まえた解釈と解き明かしが必要なのです。

礼拝に行かずとも1人で祈っていますという人がいますが、説教者の語るメッセージを聞く必要がありますし、ディボーションガイドも必要なのです。

ただし、みことばを自分に適用することは私的なことです。ひとそれぞれ違うのは当然ありうる

ことです。

説教を実践し分かち合って、またディボーションも同じように、分かち合しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

